

- 胸痛、動悸、ばち指など。
- 3) 呼吸器：咳、痰、咯血、呼吸困難、喘息、嘔声、チアノーゼ、胸痛など。
- 4) 血液：貧血、白血球増多と減少、出血性素因、肝脾腫、リンパ節腫脹など。
- 5) 腎・尿路：尿量異常、蛋白尿、血尿、浮腫、尿毒症、膿尿など。
- 6) 神経：頭痛、意識障害、めまい、言語障害、痴呆、髄膜刺激症状、頭蓋内圧亢進症状、運動麻痺、知覚麻痺、不随意運動、運動失調、けいれん、筋萎縮など。
- 7) 自己免疫疾患：紅斑、脱毛、レイノー症状、関節痛、発熱など。
- 8) 感染症：発熱、発疹、リンパ節腫脹、肝脾腫など。
- 9) 代謝、内分泌：肥満、やせ、多尿、頻・徐脈、意識障害、高血圧、色素沈着など

2. 生活習慣病

G I O：重要性が増しつつある生活習慣病の治療と予防が出来るようになるために、生活習慣病の疫学、老人の生理、機能の特徴を知り、第一次から第三次予防までの保健活動を行う知識、技能および態度を身につける。

S B O：

- 1) 主要な生活習慣病のリスク因子をあげ、その対策について述べる事ができる。
研修医チェック 指導医
- a) 癌
- b) 脳卒中
- c) 虚血性心臓病
- 2) 早期発見、早期治療のためのスクリーニングの方法、意義、限界について述べる事ができる。
- 3) 老人における生理機能の特殊性、社会環境因子に留意し、老人のケアができる。
- 4) 生活習慣病で入院した患者の合併症を予防し、速やかに社会復帰できるようにリハビリテーション（いわゆる第三次予防）計画を立てることができる。

3. 腫瘍学

G I O：臨床医にとって最も重要な疾患である悪性新生物を有する患者の管理ができるようになるために、内科における主要な癌の診断、治療、全人的な患者ケアを行うことのできる能力を身につける。

S B O：

- 1) 主要な悪性新生物（胃癌、肺癌、肝癌、大腸癌など）のリスク因子をあげ、早期発見、予防対策を述べる事ができる。
- 2) 悪性腫瘍の分子生物学、細胞遺伝学的知見を概説できる。
- 3) 悪性腫瘍の初期症状、腫瘍マーカー、検査法を述べる事ができる。
- 4) 臨床的病期分類ができる。（例えば早期胃癌の定義）
- 5) 手術、放射線治療、制癌剤療法の適応を述べる事ができる。
- 6) 主な、制癌剤の薬理、投与方法、副作用について述べる事ができる。
- 7) supportive care について述べ、実施できる。
- 8) 患者および家族のターミナルケアができる。

[各論]

以下に各臓器別にG I O、S B Oを設定する。前述した内科における一般研修目標を達成するために、疾患名を列記する。疾患名のA群は、内科研修期間中に担当医として受持ち、診断と治療ができるようになるべき疾患群である。B群は受持つことが望ましいが、それができなければ回診、臨床検討会などで経験すべき疾患群である。

1. 循環器

G I O : 主要な循環器疾患の診断と治療ができる。救急患者の初期対処ができ専門的医療の必要性を判断できる能力を身につける。

S B O :

- 1) 心不全、ショックの病態生理を説明できる。 _____
 - 2) 以下の如き検査法の方法を理解し、主要な所見を指摘できる。 _____
 - a) 心電図波形の主要変化 _____
 - b) 危険ではない不整脈と致死性不整脈を鑑別できる。 _____
 - c) 運動負荷心電図を安全な方法で行い、結果を判定できる。 _____
 - d) Holter 心電図 (長時間心電図) の適応と方法を述べるとともに判定ができる。 _____
 - e) 各方向より撮影した心血管陰影の主要な変化を述べるができる。 _____
 - f) 心エコーの主要な所見を述べるができる。 _____
 - g) 高血圧症に関する検査 _____
 - (1)眼底検査ができ、主要な変化を判別できる。 _____
 - (2)腎盂造影の方法、適応、主要変化を説明できる。 _____
 - (3)血漿レニン活性、カテコールアミン、アルドステロン活性濃度測定の意義を説明できる。 _____
 - 3) 治療 _____
 - a) 強心薬、利尿薬の薬理を述べることができ、適正な使用ができる。 _____
 - b) 抗不整脈薬の薬理を述べることができ、正確な使用ができる。 _____
 - c) 抗狭心症薬の薬理を述べることができ、適正な使用ができる。 _____
 - d) 降圧剤の薬理を述べることができ、適正に使用できる。 _____
 - e) 生活指導 (高血圧症、虚血性心臓病を含む) ができる。 _____
 - f) 人工ペースメーカー使用の適応を述べるができる。 _____
 - g) 救急処置 (再掲) _____
 - (1)ショックの治療 _____
 - (2)人工呼吸、心マッサージ _____
- ※(3)除細動
(疾患)
1. 虚血性心疾患
 - A 1) 狭心症
 - A 2) 心筋梗塞
 2. 高血圧症
 - A 1) 本能性
 - A 2) 腎性 (腎血管性を含む)
 - A 3) 高血圧性心臓病
 - B 4) 内分泌性
 3. 不整脈
 - A 1) 発作性頻脈 (上室性)
 - A 2) 心房細動
 - A 3) 高血圧性心臓病
 - B 4) sick sinus syndrome
 - B 5) WPW症候群
 - B 6) 心房粗動
 - B 7) QT延長症候群
 - B 8) 心室性頻脈
 - B 9) 房室ブロック
 4. 弁膜症
 - A 1) 僧帽弁狭窄
 - B 2) 僧帽弁閉鎖不全
 - B 3) 大動脈弁狭窄
 - A 4) 大動脈弁閉鎖不全
 - B 5) 連合弁膜症

- 5. 感染性心内膜炎
 - B 1) 細菌性心内膜炎
- 6. 先天性心疾患
 - B 1) 心房中隔欠損
 - B 2) 心室中隔欠損
- 7. 心膜疾患
 - B 1) 急性心膜炎 (突発性、SLEに合併するもの、その他)
- 8. 心筋疾患
 - B 1) 突発性心筋症
 - B 2) 心筋炎
 - B 3) 二次性心筋症
- 9. 心不全
 - A 1) 心不全

2. 消化器

G I O : 消化器疾患の診断のために、適切な検査を指示することができ、また治療を行うことができる。また救急に対処し、状態を安定化させながら手術あるいは高度な検査の適応を決定できる能力を身につける。

S B O :

1) 以下の如き、検査の方法を理解し、主要な所見を指摘できる。

a) 上部及び下部消化管 X 線検査

b) 上部及び下部消化管内視鏡検査

c) PFD 試験、*P-S 試験、ブドウ糖負荷試験

d) 肝機能検査

e) 肝炎ウイルスマーカー

f) 腫瘍マーカー (CEA、AFP、CA19-9 など)

g) 超音波検査

h) X線CT検査

i) 経皮経肝胆道造影 (PTC)、内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) の方法、適応、副作用

j) 腹腔鏡検査、肝針生検の適応、禁忌

k) 超音波映像下吸引細胞診、組織診の適応

l) 経皮経肝門脈造影 (PTP) の方法、適応

2) 以下の治療ができる。

a) 消化器疾患の食事療法、薬物療法ができる。

b) 消化器疾患の救急処置ができる。(消化器出血の内科的止血、ショック、肝性昏睡など)

c) 消化器疾患の手術適応の決定

3) 以下の治療の方法、適応および合併症について述べるができる。

a) 内視鏡的ポリープ切除術

b) 食道癌の放射線療法、進行性消化器癌の化学療法

c) 交換輸血、血漿交換

d) 肝動脈塞栓療法 (TAE)

e) 経皮経肝胆道ドレナージ (PTBD)

f) IVHの理論と実施法を述べるができる。

g) 食道静脈瘤の硬化療法

h) 肝臓がんの経皮的エタノール注入療法

i) 慢性C型肝炎のインターフェロン療法 (疾患)

1. 胃十二指腸疾患

- A 1) 急性胃炎
 - A 2) 急性十二指腸潰瘍
 - A 3) 胃癌 (早期胃癌を含む)
 - B 4) 食道癌
 - B 5) Mallory-Weiss 症候群
2. 腸疾患
- A 1) 腸炎：腸管感染症と細菌性食中毒
 - A 2) 虫垂炎
 - A 3) イレウス
 - B 4) 限局性腸炎
 - B 5) 潰瘍性大腸炎
 - B 6) 腸癌
 - B 7) アミロイドーシス
3. 肝、胆道疾患
- A 1) 急性肝炎
 - A 2) 慢性肝炎
 - A 3) 肝硬変症
 - A 4) アルコール性肝障害
 - A 5) 胆石症
 - A 6) 胆道感染症 (胆のう炎、胆管炎)
 - B 7) 肝癌
 - B 8) 薬物性肝障害
 - B 9) 突発性門脈圧亢進症
 - B 10) 肝腎症候群
 - B 11) 劇症肝炎
 - B 12) 胆のう癌、胆管癌
4. 膵・腹膜
- B 1) 急性膵炎、慢性膵炎の急性増悪
 - B 2) 急性腹膜炎
 - B 3) 膵癌
 - B 4) 癌性腹膜炎

3. 呼吸器

G I O:呼吸器の感染症ならびに非感染性疾患の診断と治療ができる。又呼吸不全を他から鑑別し、救急治療ができる能力を身につける。

S B O :

- | | 研修医 | 指導医 |
|---|-------|-------|
| 1) 以下の如き検査を確実に実施し、主要な所見を指摘できる。 | | |
| a) 胸部単純および断層撮影 | _____ | _____ |
| b) 胸部CT検査 | _____ | _____ |
| c) 喀痰採取法
グラム染色と抗酸菌染色標本を観察し、おおまかに起炎菌を推定できる。 | _____ | _____ |
| d) 胸腔穿刺、検体の取扱い | _____ | _____ |
| e) 肺機能検査 | _____ | _____ |
| f) 動脈血ガス分析 | _____ | _____ |
| g) 気管支造影および内視鏡検査の適応を決定し、指示できる。 | _____ | _____ |
| 2) 呼吸器疾患 | | |
| a) 鎮咳、去痰薬の適切な使用ができる。 | _____ | _____ |
| b) 抗生物質 | _____ | _____ |
| c) 吸入療法 | _____ | _____ |
| d) 酸素療法：方法、適応、副作用 | _____ | _____ |
| e) 気管支拡張薬 | _____ | _____ |
| f) ステロイド剤 | _____ | _____ |

g) レスピレーター：適応、正しく操作できる。
(疾患)

1. 肺気管支疾患
 - A 1) 急性上気道感染症
 - A 2) 急性気管支炎
 - A 3) 細菌性肺炎
 - A 4) 沈下性ならびに吸引性肺炎
 - B 5) マイコプラズマ肺炎
 - B 6) ウイルス肺炎
 - B 7) 肺化膿症
 - B 8) 肺真菌症
 - B 9) 肺結核症
 - B 10) pneumocystis carinii 肺炎
 - B 11) びまん性間質性肺炎
2. 肺胞気管支系の異常拡張及び閉塞
 - B 1) 気管支拡張及び閉塞
 - B 2) 中葉症候群
 - B 3) 無気肺
3. 閉塞性肺疾患
 - A 1) 慢性気管支炎
 - A 2) 肺気腫
 - A 3) 気管支喘息
 - B 4) びまん性細気管支炎
4. 呼吸器新生物
 - B 1) 肺癌
 - B 2) 良性腫瘍
5. 肺循環障害
 - B 1) 肺塞栓・梗塞症
 - B 2) 原発性肺高血圧症
6. その他
 - B 1) 肺サイコイドーシス
 - B 2) PIE症候群
7. 胸膜疾患
 - B 1) 胸膜炎 (胸水含む)
 - B 2) 自然気胸
 - B 3) 膿胸

4. 感染症

G I O：感染部位と起炎菌（ウイルス含む）を同定し、患者の状態に基づいて適切な治療ができるようになるための知識と技能を身につける。

S B O：

研修医チェック

指導医

- 1) 感染部位別に起炎菌の頻度を述べるができる。
- 2) 一般細菌、真菌、ウイルス検査のために、以下の材料を正しく採取し、輸送、保存できる。膿、採取液、喀痰、尿、血液（採取時期、回数など）
- 3) 塗抹標本のグラム染色、抗酸性染色ができ、観察によって起炎菌の推定ができる。
- * 4) 血清学的診断の方法と評価ができる。
ウイルス、一般細菌、リケッチア、スピロヘータ、真菌、マイコプラズマ
- 5) 薬剤感受性検査の意義について述べるができる。
- 6) 抗生物質の薬理作用を知り、患者の状態を考慮して適切に治療できる。ペニシリン、第1～3世代セフェム系、アミノグリコシドなど
- 7) 院内感染症、日和見感染症、菌交代現象、immuno-compromised host の概念を述べるができる。